

# 東日本大震災・信越地震 支援ニュース⑨

長野医療生活協同組合 企画・教育部ニュースNo.38

発行：2011年4月28日 新津みさ子

～絆～  
心ひとつに!!

## 第10次：医療支援 4/13～17迄 宮城県塩釜市 坂総合病院へ 中村祐介(医師)が行ってきました。

生まれが関西ということもあり、小学生の頃に阪神大震災を身近で経験し、多くの方が命を落とされた悲惨な状況を目の当たりにしていたので、医療者となった現在、宮城での大震災で少しでも被災者の力になりたいと思ひ微力ではありますが、参加致しました。

初日は坂総合病院の救急救命室へ、2日目は多賀城総合体育館へ避難所訪問、3日目は外来と救急を担当させて頂きました。体育館は現在も多くの被災者が避難されており、広い体育館が狭く感じるほど、ダンボールで柵を作って生活しておられました。被災者の方々の中では特に感染症が流行しており、咳をしたり熱を出したりされている方が多数見られ、薬は十分とは言えない状況でした。私は被災者に薬を処方しましたが、不安を拭うことができた自信はなく、ただ被災者の声に耳を傾けることしかできませんでした。



坂総合病院の近くは震災の影響を受けていませんでしたが、余震の影響で電気が止まっていました。多賀城を越え少し海よりに歩くと道路には何処から流れてきたかわからない家具や車、船が散在していました。津波の恐怖が生々しく伝わってきました。

現在の私の生活は、普通に電気や水道が使用でき、近くで食べ物を買うことができる当たり前と考えていた自分が恥ずかしくなりました。今回の支援で被災者の力になれたがどうか分かりませんが、今まで過ごしてきた当たりの生活を当たり前と考えず、被災者の方々に出来ることをこれからも探していきたいと感じました。

## 第11次：復興支援 4/20～24迄 宮城県松島町 松島海岸診療所へ 酒井美恵(血浄C) 轟幸歩(臨床検査科) 檀原弘幸(老健)が行ってきました。

震災当日なるせの郷で勤務していた介護職員は、利用者に乗せた車ごと津波にあい、たまたま隣にある小学校に流され救助されたようです。この日も笑顔で利用者の入浴介助をしていましたが、こちらから声をかけることが出来ませんでした。いまはその日その日を精一杯頑張っているが、心が休まる時間はあるのか？自分の思いを吐き出す場所はあるのか？私がそんなことを心配してもなんの解決にもならないが、一生懸命頑張っている姿を目の当たりにして、こんなおせっかいな気持ちが一杯になってしまいました。

今回の支援活動では、全国の様々な職種の人が活動を行った。職種や地域は違えども志は同じ。今回参加した全員が被災の状況をしっかりと受け止め、自分に出来ることを精一杯行ってきました。

震災から一ヶ月以上が経過し、支援の方法は変わってきています。しかし、まだまだ長期的な支援活動が必要になります。私が見た街、私が出会った人…今回、支援活動に参加し感じたことを周りで働く職員や家族に伝えていくことが、私の役割だと思います。メディアの報道がなくなったとしても決して復興が出来たわけではなく、阪神淡路大震災で復興に10年、今回は更なる時間を要することは間違いありません。今回の支援活動に参加させていただいたことに心から感謝します。



### ★義援金集約

(4/28現在)

3,927,796円

(物資・経費のぞく)

民医連へ1,016,032円送金済!

### ★義援金の遣いみち

民医連は被災した民医連事業所を通じて、医薬品、救援物資などの形で被災者の利益に結びつく形態で有効活用します。(3.23 全日本民医連より) また、義捐金の一部は、被災した栄村に寄付しています。